

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3 新年のごあいさつ 4 酉年 年男、今年もよろしくお願ひします。

6 関東地域づくり協会からのお知らせ 第29回 道のある風景写真コンクール

8 東京臨海広域防災公園合同訓練に参加
平成28年度 関東防災エキスパート講習会を実施しました
サイタマ道の駅フェスタに参加
地域づくり研究所 活動報告

10 プロジェクトK³⁰ 豊かな自然を抱く、治水と利水の要所 渡良瀬遊水地 総合開発事業

14 関東の河岸めぐり⑨ 小川河岸 茨城県

16 関東の土木遺産³⁰ 大原隧道・東隧道 神奈川県

18 会員のひろば 釣りと言言・格言

19 会員情報 新会員紹介・お悔やみ 編集委員会だより

20 ピックアップ 関東の「道の駅」⑧ 洋野菜の地産地消・ブランド化で 地域を元気に！ 道の駅常陸大宮かわプラザ



表紙の言葉

反町維吹さん（群馬県高崎市立長野小学校4年生）

春よ来い

この写真は当会が主催する第29回「道のある風景写真コンクール」小学校の部の金賞に選ばれた群馬県高崎市立長野小学校の反町維吹さんの作品です。

「家族でお祭りに行った時の写真です。2月に山車が繰り出すとても珍しいお祭りで、雪道のなか山車と練り歩く様子を撮りました」

春の気配を色濃く感じる作品で撮影した角度が優れている点が評価されました。

理事長あいさつ 新年のごあいさつ

(一社)関東地域づくり協会 理事長
奥野晴彦



皆様、あけましておめでとうございます。平成29年の年頭に当たり、ごあいさつ申し上げます。

去年は、本当にさまざまな出来事がありました。自然災害も多発いたしました。4月中旬熊本県を中心にマグニチュード7.3、震度7の巨大な地震が発生し、死者161名、家屋の全半壊40,000棟以上など大きな被害がありました。この地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、この地震により、インフラにも多大な被害がありました。阿蘇大橋や、高速道路の跨道橋が落橋した状況などがテレビ、新聞などで報道され、改めて、地震の威力の大きさに圧倒されました。

この熊本地震のほか、北海道、福島沖、鳥取などでも大規模な地震がありました。日本列島全体が揺れ動いているという感じを強く持った一年でありました。

台風による水害、土砂災害も多発しました。特に、8月には東北、北海道に台風が上陸し、大きな被害をもたらしました。この台風は、これまで経験のないコースをたどり、ました。気象状況がこれまでと異なってきたという感を強くしたところです。このような自然災害への備えを急がなければなりません。

政治や経済の面でも多くの出来事がありました。年の初めには原油価格の低下等に伴う円高、株安があり、経済を活性化させるためのマイナス金利の導入、消費税増税の延期、伊勢志摩サミットを経ての財政出動などの対策が取られました。また、英国のEU離脱、米国の大統領選挙など、今後の世界の政治、経済情勢を大きく変えるかもしれない出来事もありました。何が起きるかかわからない、何が起きても不思議ではない時代に突入したという気がします。

その中で、オリンピック、パラリンピックにおいて日本選手が活躍したことや、参議院選挙において、当協会の会員でもある足立敏之氏が当選されたことは、数少ない朗報であったと思います。

このように多くの出来事があった一年でしたが、当協会の運営は着実に推移して参りました。平成25年以来進めてきた発注者支援業務等の関東建設マネジメント(株)への譲渡は、昨年10月1日をもって予定どおり完了いたしました。これも皆様のご支援の賜物と感謝しております。今後は、協会、会社ともそれぞれの使命を着実に果たすべく更なる努力を重ねていく必要があります。

さて、協会は昨年、弘済会設立から50周年の節目を迎えました。この50年間弘済会、協会は社会資本の整備、管理を通じてより良い国土、地域づくりを進める地方建設局(整備局)のサポーター役として、関東の地域づくりに貢献してまいりました。この間、会員、職員の持つ技術、ノウハウをいかに発揮するとともに、更なる技術、ノウハウを蓄積して来たところであります。また、これらの活動を通じ、多くの人の信頼も得てきたものと自負しております。今後もこれまでの経験を生かし、関東の地域づくりに貢献することが協会の使命であり、地域の人々からも大きく期待されていると確信しています。

関東地方の国土づくり、地域づくりは引き続き多くの課題を抱えています。首都直下地震や変動する気象条件による異常降雨などの巨大自然災害への備え、人口減少による地域衰退への対処、地域の活性化、東京都市圏の経済社会活動の効率化、美しい都市、地域づくりなど枚挙にいとまがありません。当面の課題として、オリンピック、パラリンピックへの環境整備も重要です。これらの課題解決のためにも、しっかりとしたインフラの整備、管理、効率的利用が不可欠です。協会としても蓄えた技術、ノウハウを活用し、整備局のみならず、地方公共団体などの活動を支援することを通じ、これらの課題解決に少しでも貢献していく必要があると考えております。

具体的には、災害発生時の迅速な支援活動や、平常時の防災意識の向上などの防災事業、社会資本の役割や重要性をより多くの人に理解を深めてもらう研究、広報活動、水、緑、美しい景観などの環境整備事業、地域活性化事業などの公益事業を着実に実施することが何をおいても必要であります。さらには、インフラの品質の確保、着実なメンテナンスを通じてのインフラの健全性確保、優秀な技術者の育成、道の駅を拠点とする地域活性化の支援なども、強力に進めていかなければなりません。

設立以来50年を経過した今年、初心にかえり新しいスタートを切る、協会の新しい歴史を作るという心構えのもと、全力を挙げさまざまな課題に取り組んでまいりますので、会員の皆様には、引き続き強力なご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

終わりに、今年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

2017

酉年

年男、
今年もよろしく
お願いします。



年男の抱負

昭和8年生まれ

大内勲さん

元 関東地方建設局 総務部 調整官



7回目の年男

昭和20年生まれ

吉澤伸雄さん

常磐工業株式会社

元 首都国道事務所 副所長

古希の年に誕生した
6人目の孫（喜子）と

新年あけましておめでとうございます。

このたび、年男の抱負を寄稿してもらいたいとの要請があり、いろいろと考えましたが、加齢と共に増大する自己の医療費を少しでも軽減しなければと決意したことです。

陰性型の抱負といえますが、年間1割の自己負担金は何万円にもなり、残る9割は何十万円にもなり、後期高齢者医療制度側の負担となります。

当該制度の機関から定期的にその事実が通告され、愕然とし自身が納付する年間の保険料の何倍もの額が医療機関に支払われています。これが現況で恐縮しています。

昨今、新聞等で社会保障費の財源が不足し深刻な状況で、財政当局がその対応に難渋していると報道されています。少しでも医療費の支出を縮小することが自己のためにも社会のためにも役に立つと思います。退職後、いたずらに安逸をむさぼり、馬齢を重ねてきました。世にご迷惑をお掛けしました。

終わりに皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。



関東地域づくり協会『協会だより』を読んでいらっしゃる皆さま、新年あけましておめでとうございます。

我が干支は「酉」。この年を今まで信州の松本市で2回、信州新町、埼玉県大宮市、千葉県松戸市そして今年は、千葉県柏市で2回目を迎えているが、トータルでは生まれた年を1回目として今年は7回目である。

ところで最近の日本や世界では、巨大地震、迷走する大型台風、猛烈な集中豪雨、熱波や季節外れの雪等、今までと異なった自然の脅威があり、多くの人が被害を受けています。

私自身は幸いなことに、どの地でも震度3や震度4弱程度の地震は経験しましたが、大きな自然災害に遭ったことはなく、防災に対する意識、備えを心がけていきたいと思います。

また、健康面でも虫垂炎程度で大きな病気を患ったこともなかったので、これからも大変かと思うが、今の状態を維持していきたいと思っています。そのために新たなことに挑戦し成長を望むのではなく、適度な運動（ウォーキング、ゴルフなど）、適度な睡眠（8時間弱）、適度な飲食（腹八分、お酒は1合程度）、お付き合いは和気あいあいと楽しむ、気持ちだけの若さに惑わされて無茶な行動を控える。

そんなことを心がけ現状維持を継続していきたいと考えています。



年男にあたり

昭和32年生まれ

神谷正一さん

(一社)関東地域づくり協会 総務部 調査役
元 千葉国道事務所 副所長

自宅近くの神社で

新年あけましておめでとうございます。

協会に採用され、あっという間に1年半が過ぎ、そして新しい年を迎えました。私がこれまで行ってきた業務は建設業法に基づく各種施工管理技術検定試験の願書販売や試験会場の確保・設営等ですが、どれも新鮮さを感じ、日々楽しく過ごさせていただいております。

協会に採用される前からですが、私はできるだけワーク・ライフ・バランスを大切にしたいと思っています。私生活の部分述べますと平日は時間の許す限りジムワークに出かけ、汗を流します。表現に適切さを欠くかもしれませんが、そこには運動だけでなく友達や職場では味わえない楽しみが待っています。また、週末はほとんど実家へ帰り、草取りや植木の手入れなどを行っています。面倒だとは思いますが、草取りも私には心身の健康を維持する上で有効な手段となっているようです。草をいかに根からきれいに取るか、1本1本の草取りが小さな勝負であり、そのことのみに集中して他のことは何も考えません。取れたときの達成感が徐々に膨らんできて、草取りが終わり、庭がきれいになったときには充実感を感じます。

年男ということで何か特別な年にしようと元旦から考えましたが思い浮かびません。今年もこれまで同様の生活となるうかと思いますが、その生活を維持していくことで私のワーク・ライフ・バランスが取れていくのかと思います。

今年もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



干支にあたり

昭和44年生まれ

刈部和人さん

(一社)関東地域づくり協会 技術部

日光東照宮で次男と

新年あけましておめでとうございます。今年、4回目の自分の干支を迎えました。そこで酉年の出来事を調べてみました。

- ・生まれた年：1969（昭和44）年…… 人類初の月面着陸・テレビアニメ『サザエさん』放送開始。
- ・12歳：1981（昭和56）年…… スペースシャトル コロンビア打ち上げ・『ノストラダムスの大予言III』がベストセラー。
- ・24歳：1993（平成5）年…… 皇太子徳仁親王と小和田雅子さまの結婚の儀が行われた・Jリーグが開幕・細川政権の連立内閣。
- ・36歳：2005（平成17）年…… JR福知山線脱線事故が発生・小泉内閣の郵政民営化をめぐった解散。

酉年って政変の年なのかな。今年はアメリカが。

自分も振り返れば平成3年より協会にお世話になり、早いもので26年が過ぎようとしています。その間に組織変更や名称変更、いろいろな仕組みが変わったり、事業譲渡などなどがありました。

今年は、事業譲渡関係の情報システム入れ替えて各種業務の移行が滞りなく行えるようにしたいと思います。また、IT系のスキルアップを図り、業務に役立てていこうと思います。

本年も皆さまのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

昨年を振り返る

2016年「今年の漢字」は金でした。

(公益財団法人 日本漢字能力検定協会)

ブラジルでリオ五輪が開催され、日本は12個の金メダルを獲得しました。

日本の出来事

- 1月 マイナンバー制度開始
- 2月 日本銀行、マイナス金利開始
- 3月 北海道新幹線開業
- 4月 熊本地震
- 5月 伊勢志摩サミット開催
アメリカ・オバマ大統領、広島訪問
- 6月 舛添要一都知事が辞職
18歳選挙権施行
- 7月 ポケモンGO 配信開始
参議院選
神奈川県障害者施設で19人殺害事件
小池百合子氏、初の女性都知事に

- 8月 リオ五輪、メダル41個獲得
築地市場の豊洲移転延期
- 9月 広島、25年ぶりセ・リーグ優勝
- 10月 大隅良典氏、ノーベル賞受賞
鳥取県中部地震
- 11月 福岡県、博多駅前の市道が大規模陥没
- 12月 安倍首相、真珠湾訪問
新潟県、糸魚川市で大規模火災

世界の出来事

- 1月 台湾、蔡英文氏が総統に初当選
北朝鮮「水爆実験」発表
- 2月 台湾地震

- 3月 アメリカ・オバマ大統領、キューバ訪問
ベルギー同時テロ
ミャンマー新政権発足
- 4月 「パナマ文書」公開で各国に波紋
- 5月 エジプト航空の旅客機が地中海に墜落
- 6月 イギリスで国民投票、EU離脱へ
- 7月 イギリス新首相にメイ氏
- 8月 ブラジルでリオデジャネイロオリンピック開幕
- 9月 安倍首相、キューバを初訪問
- 10月 タイ国王死去
- 11月 キューバ、カストロ前議長死去
アメリカ大統領選でトランプ氏勝利
- 12月 韓国、朴槿恵大統領弾劾訴追案を可決

第29回 道のある風景写真コンクール

昭和63年にスタートした「道のある風景写真コンクール」。29回目となった今回も、私たちの生活に欠かせない「道」をテーマに小学生から高校生まで多数の応募がありました。

応募枚数は8,102枚、応募者数

は4,237人。写真家の木村恵一先生と熊切圭介先生、関東地方整備局道路部の護摩堂満情報管理官、当会の後藤敏行専務理事の4名による審査で入賞作が決定しました。

入賞作品は関東の道の駅などで展示を予定しています。



審査風景

金賞



小学校の部

「春よ来い」

反町維吹さん

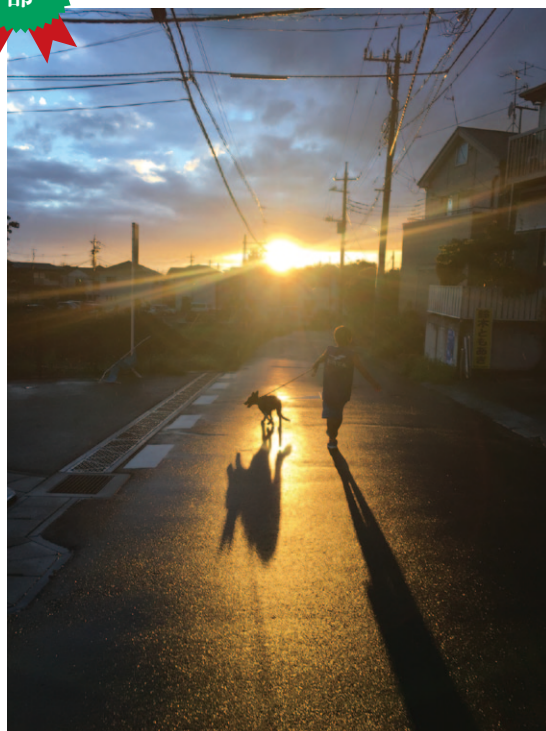
群馬県 高崎市立長野小学校4年生

中学校の部

「犬がウサギにばける時」

星川龍之介さん

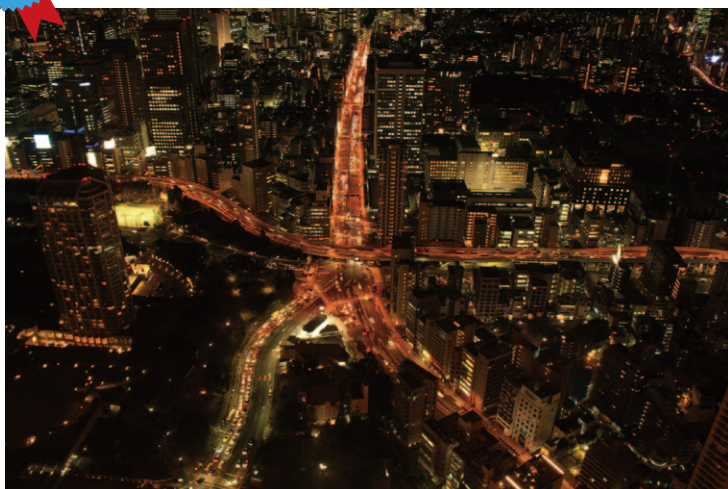
千葉県 松戸市立第五中学校1年生



高等学校の部

「星」 折久木佑奈さん

東京都 都立工芸高等学校3年生



学校賞

小学校の部
中学校の部
高等学校の部

千葉県 勝浦市立勝浦小学校
千葉県 松戸市立第五中学校
東京都 共立女子高等学校

主催：(一社)関東地域づくり協会
協力：ビックカメラ

銀賞



小学校の部

「かげのうつる道」

中島音緒さん

埼玉県 草加市立高砂小学校3年生



小学校の部

「盆踊りでの
きれいな後ろ姿」

壁谷賢青さん

埼玉県 草加市立高砂小学校6年生



中学校の部

「さんぽ」茂出木さくらさん

茨城県 八千代町立八千代第一中学校3年生



中学校の部

「人ごみの中」沼野井陽向さん

千葉県 松戸市立第五中学校1年生



高等学校の部

「青春on the road」松崎結子さん

東京都 共立女子高等学校2年生



高等学校の部

「思い出の道」

星野真輝さん

山梨県
県立甲府工業高等学校2年生

ビックカメラ賞



小学校の部

「水鏡の世界」

笠井あずみさん

山梨県 市川三郷町立
六郷小学校3年生

中学校の部

「羊の通勤」

景山祐樹さん

千葉県 松戸市立
第五中学校1年生



高等学校の部

「夏といたら」飯田彩月さん

東京都 富士見高等学校1年生

東京臨海広域防災公園合同訓練に参加

10月31日（月）、東京臨海広域防災公園にて、東京臨海広域防災公園合同訓練が実施されました。同公園は、平常時は憩いの空間として開放されているほか、防災体験学習施設「そなエリア東京」を併設し広く国民に活用されていますが、大規模災害が発生した場合には、政府の緊急災害現地対策本部が設置されます。

この合同訓練は、今年度が3回目。内閣府や国営昭和記念公園事務所、防災エキスパートが参加し、大規模災害発生時に速やかに防災初動対応に移行できるよう、関係者が一堂に会して訓練することを目的としています。

当日は「土日祝祭日の14時に東京湾を震源地とするM7.3の地震が発生、東京23区の震度は7」という想定の下、施設の被災状況確認および情報伝達を中心に訓練が実施され

ました。
訓練後は、参加者による意見交換会も行われました。



施設点検



意見交換

平成28年度
関東防災エキスパート講習会を実施しました

11月から12月にかけて、各地で平成28年度の「関東防災エキスパート支部別講習会」を実施しました。

12月9日（金）には四支部合同講習会（大宮支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部合同）を開催し、関係者約200名が参加。以下の要領で情報提供や講演会を行い、東京臨海広域防災公園の施設見学も行いました。

(1) 講習会

「関東地方整備局の防災への取り組みについて」
伊藤芳則氏（関東地方整備局総括防災調整官）

(2) 講演会

「災害発生と防災機関の対応について」
土屋信行氏（公益財団法人リバーフロント研究所理事）
「子どもたちへの防災教育——手づくりハザード・マップと地域防災のエージェントを期待して」
寺本潔氏（玉川大学教育学部教授）



東京臨海広域防災公園で行われた四支部合同講習会



当日、講師をお願いした寺本氏が編集委員の一人として作成した防災教育パンフレット（関東地方整備局発行）

平成28年度関東地方防災エキスパート講習会実施日

支部名	登録者数*	参加者数*	実施日・時間	場所	内容
水戸支部	60名	27名	11月17日(木) 10:00～15:30	茨城県県西生涯学習センター	講習会・現地視察
宇都宮支部	41名	12名	11月18日(金) 10:00～16:00	足利市市民プラザ	講習会・現場視察
高崎支部	90名	43名	11月29日(火) 13:00～17:00	群馬県市町村会館	講習会・講演会
甲府支部	42名	24名	11月30日(水) 10:00～16:30	ベルクラシック甲府	講習会・現場視察
長野支部	40名	24名	12月 7日(水) 10:30～14:30	JA長野県ビル	講習会・現地視察
大宮支部	213名	56名	12月9日(金) 10:30～15:30	東京臨海広域防災公園 [そなエリア東京]	講習会・講演会・ 公園視察
千葉支部	216名	52名			
東京支部	35名	7名			
神奈川支部	59名	13名			
四支部計	523名	128名			
合計	796名	258名			

※防災エキスパート登録者数、参加者数

サイタマ道の駅フェスタに参加

11月11日(金)、12日(土)の2日間にわたり、埼玉県越谷市のイオンレイクタウンにて「サイタマ道の駅フェスタ」が開催されました。今回は埼玉県内の道の駅20駅のうち9駅が参加。各駅の取り組みや特産品をPRするとともに、県内の道の駅間の連携強化を図ることも目的の一つとしています。

当会はこれを後援し、関東の道の駅の全体マップの展示や各道の駅の紹介を行ったほか、4月に起こった熊本地震による被災状況と防災拠点として活用された九州の「道の駅」についてパネルで紹介しました。大宮国道事務所も参加し、圏央道と道路のメンテナンスに関するパネル展示が行われました。



地域づくり研究所 活動報告

「地域づくり研究所」は、地域の人々を対象とした社会資本に関する啓発活動、地域の防災ネットワークの構築支援、地域創生(地域づくり)支援および調査研究等の活動により国土の安全、安心、地域の活性化に寄与することを目的として、平成26年9月に活動を開始しました。

活動の一つである有明にある東京臨海広域防災公園内

の防災体験学習施設に来館する小中学生に対する「防災語り部」では、「地震等の災害の歴史」「地震の強さ、発生の仕組み」「地震によりどのようなことが起きるのか(被害の規模)」「これらをあらかじめ知ることでどう地震に備えるか」などを客員研究員が解説。小中学生たちは真剣な表情で聞き入っていました。

■ 防災・減災に関する活動

- ・ 千葉商科大学市民講座「災害危機管理講座」講師
宮尾博一氏 10月8日(土)「江戸川の防災」対象：市川市民
- ・ 東京臨海広域防災公園
防災体験学習施設に来館する子どもたちを対象とした防災語り部
森永教夫氏 11月24日(木) 対象：秋田市立將軍野中学校生
中島威夫氏 12月13日(火) 対象：新潟市立小針中学校生
- ・ 市川市自治会連合協議会講演会「防災講演会」講師
宮尾博一氏 12月17日(土)「江戸川の防災」対象：市川市民

秋田市立將軍野中学校生に
地震発生の仕組みなどについて
解説する森永氏



東京臨海広域防災公園防災体験学習施設
来館者を対象とした防災語り部

豊かな自然を抱く、 治水と利水の要所

渡良瀬遊水地 総合開発事業



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。

第30回は、渡良瀬遊水地 総合開発事業に携わった

伊藤三男さん、谷村大三郎さん、白井勝二さんと現場を訪ねました。

伊藤三男さん

昭和30年入省、平成2年、品木ダム水質管理所長を務めたのち平成3年退職。



谷村大三郎さん

(株)新井組東京支店技術部長。昭和41年入省、平成13年、相模川水系広域ダム管理所長を務めたのち平成15年退職。



白井勝二さん

(一財)渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団渡良瀬遊水地研究所所長。昭和43年入省、平成16年、企画部技術調整管理官を経て平成17年退職。



- ① 遊水地の北エントランス入口には明治時代に遊水地化のため移転となった旧谷中村の合同慰霊碑が立つ。ハート形をしている谷中湖のくぼみの辺りには、史跡を残した
- ② 渡良瀬貯水池完成後(平成7年頃)
- ③ 平成2年に運用を開始した渡良瀬貯水池(谷中湖)は日本で初めての平地型ダム。集水面積が広く、首都圏まで約5時間で供給できる



(写真提供: 利根川上流河川事務所①②
⑤⑦⑧⑫)

- ④ 谷中湖に架かる橋から湖面を見渡す。管理用道路はいずれも工事用の道路を整備したもの

利根川の氾濫と鉱毒問題に対処する 渡良瀬遊水地の完成

渡良瀬遊水地の全貌をひと目で捉えるのは難しい。栃木・群馬・茨城・埼玉の4県にまたがる日本最大級の遊水地は、それほどに広大な土地である。遊水地全体の面積は33km²、堤防や台地で囲まれた外周の距離は約30km。その敷地の多くがヨシで覆われている。夏は一面の緑に多種多様な生物が群れ集い、冬になれば赤城山から寒風が吹き下ろす中、地場産業であるヨシズづくりのために、黄色く枯れたヨシを刈る人の姿が見られる。

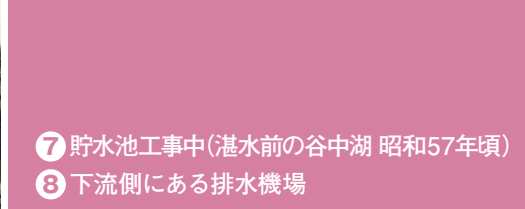
渡良瀬遊水地は、明治43(1910)年から大正11(1922)年にかけて行われた渡良瀬川の改修により誕生した。その背景には、度重なる利根川の氾濫と、上流にあった足尾銅山の鉱毒問題が大きく関わっている。

江戸時代初期から運営されていた足尾銅山は、明治前期の産銅量の増加により立木の伐採や有毒ガスにより植物生育環境の悪化が進んでいた。著しく荒廃した山地からは洪水のたびに鉱毒を含む土砂が流出し、渡良瀬川に流入。これが河床の上昇につながり、少しの雨でも

大洪水を引き起こす原因となっていたのである。政府による調査の結果、渡良瀬川の氾濫を防ぐために堤防を築くとともに、洪水時、一度に大量の水が利根川に流入しないよう調節するため下流部に遊水地を設けることになったのだ。この過程で区域内に位置した谷中村が廃村になり、地域の人々の生活が犠牲となった。

遊水地は、その後も幾度かの改修が行われた。昭和10(1935)年から数年ごとに起こった大洪水を契機に、遊水地のより効率的な活用のため改修が計画されたが第2次世界大戦の勃発により中断。昭和38(1963)年、調節池化事業を開始。さらに、近代的な高度水利用に対応するとともに、洪水調節の機能を強化するため、昭和51(1976)年には総合開発事業として多目的ダムである渡良瀬貯水池を建設することになった。

現在の渡良瀬遊水地には貯水池を含む第1調節池、第2調節池、第3調節池があり、その間を渡良瀬川、思川、巴波川が流れ、約4km下流で利根川に合流する。長い歴史の中で、鉱毒を契機として整備され、利根川水系の治水の要となっただけでなく、首都圏の水がめとしてもその役割を果たしてきた。今回は、総合開発事業



⑤ 貯水池の工事は、小型浚渫船で排水路を造って湿地の水位を下げることから始まった

⑥ 湿地を縦横125mごとに区切り、深さ1mごとに土質を調査した

⑨ ウォッチングタワーに登ると遊水地がぐるりと見渡せる。柱にある白い線のところが、洪水時の最大水位

に携わった3人の方にお話を伺った。

湿地を掘削し、平地にダムを造る

伊藤三男さんは、昭和43(1968)年から45年まで、利根川上流工事事務所工務課設計係として第1調節池の設計を担当。その後の昭和52(1977)年から55年までは開発工務課長として、昭和63(1988)年から平成2(1990)年には副所長として、総合開発事業の渡良瀬貯水池の建設に携わった。当時の課題について、伊藤さんは次のように説明する。

「遊水地は湿地帯であり、どうやって掘削するか、その方法も簡単ではありません。まずは小型浚渫船で排水路を造り水位を下げ、掘削機が入って掘削するための道路と、土を運び出す工所用道路を造ることになりました。また貯水池は、簡単にいえば平地にダムを造る事業。原地盤から約5m掘り下げることになると、掘削土量は1800万 m^3 にもなります。それだけの土をどんな機械で掘削し、どうやって運搬するか。1 m^3 にかかる費用が1円違ってても1800万円の差になってしまいます。砂、砂質シルト、粘土の入り混じった現場の土質状況や、大規模土工事であることから、通常工事とは異なる大型機械を導入するなど標準積算基準とは別に、この事業のための積算基準を策定し工事費を算定しました」

また、貯水池にあたる場所は旧谷中村があったところ

であり、かつて頻発した洪水の影響から、足尾銅山に由来する重金属を含んだ土がまばらに分布していた。そこで掘削に入る前に、どの場所のどの深さに、どのような質の土があるかも調べることに。当時は500mピッチで調査されていたが、万全を期して125mピッチで区切った。貯水池の面積は4.5 km^2 。これを深さ1mごとに調べたというのだから、気の遠くなるような作業であり、伊藤さんが先に述べた通り、貯水池の掘削により出る土は大量だった。

「近隣の市町村での土の需要を調べたところ、工期内の8年ですべて運び出すのは難しくても、後々まで考えれば需要は見込めることが分かりました。そこで、遊水地内の野木地先に仮置き場を設け、最大500万 m^3 を仮置きできるようにしたのです」(伊藤さん)

土の運搬費用を誰が負担するのかも問題になったが、採土の現場から最大9kmまではダム事業として運搬費を負担することにした。

谷村大三郎さんは、伊藤さんが現場を去った後、昭和55(1980)年から57年まで開発計画係長として事業に携わり、掘削した土の配土計画の調整を担当した。

「次年度はどんなところで土を使用する予定があるかと、利用の見込みを調査したところ、学校の敷地や公園、集合住宅の地盤基礎造りのための土地改良など、周辺地域では土は皆欲しがっていました。特に住宅公団は多かったですね」



⑩現在の遊水地の姿を確認しながら、かつての現場の苦労を思い起こす



⑪

⑪ 湿地帯に自生するヨシ原を通じた浄化は、水質改善の方策の一つ



⑫



⑬

⑫ 谷中湖の護岸は場所ごとに変化をつけた

⑭洪水の際、調節池内に流入させるための越流堤（一般は立入禁止）は、表面が特殊なアスファルトで舗装されている。「上流下流の越流堤の設計が終わってほっとしていたら、着工の前に転勤になったのです」と伊藤さん。完成したものを間近に見て感慨もひとしお



ただ、全体の19%が砂目の土で、70%以上が粘土質。土質が一定ではなく、欲しい土が採れないこともあり、「ちょっと気の毒なこともあった」と谷村さんは振り返る。当時は一日に1万m³の土を持ち出すために平均200台のダンプが通ったという。それが年に200日も続いた。

渡良瀬貯水池、通称「谷中湖」の供用開始は平成2（1990）年。利根川上流域のダムとともに、渇水時に首都圏に水を供給する重要な水源となっている。

治水と利水にとどまらず 多様な機能を持つ

白井勝二さんは、総合事業計画のほぼ最終段階にあたる昭和61（1986）年から63年まで、工務課設計係長として事業に携わった。その後も2回同事務所に勤務したが、退職後から現在までは（一財）渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団専務理事および渡良瀬遊水地研究所所長として、管理に携わっている。渡良瀬遊水地との関わりはむしろ現在の方が深いといえるだろう。白井さんは遊水地の機能についてこう説明する。

「一つに、水害を防ぐこと。二つに、水が足りないときに備えて貯めておくこと。三つに、多種多様な動植物の生息の場として積極的に環境をつくること。四つに、人々のレクリエーションの場として活用してもらうこと。治水と利水の要であるだけでなく、今では多様な機能を持って

いるのです」

歴史的な経緯を知る人が少なくなっている中、地域の人々に改めて遊水地の大切さが認識されたのは、鬼怒川が決壊した平成27（2015）年9月の関東・東北豪雨災害の際だ。数年に一度は、台風時に渡良瀬川が増水し、遊水地内の水位が上がることもあるというが、鬼怒川決壊の際は第1調節池、第2調節池の大半が水に浸かったという。「いざというときにきちんと機能するためにも、日頃からの整備が必要です」と白井さん。

渡良瀬遊水地は、ゴルフや釣り、バーベキューやサイクリングなどさまざまなレジャーにも利用されており、現在では年間約120万人が訪れる。平成24（2012）年7月には、多くの動植物が生息する貴重な湿地環境であることが認められ、ラムサール条約湿地に登録された。

「ラムサール条約への登録は、近隣の人々に渡良瀬遊水地の自然環境を知ってもらうきっかけにもなりました。ここの面白いところは、人が定期的に手を加えることで保たれている自然だということです。泥の上下を入れ替えることで湿地を再生したり、年に一度、ヨシ焼きをすることでよいヨシを育て、春に発芽する植物のために日照を確保したり。これからも多くの人に利用され、地域の宝であり、自慢してもらえるような遊水地にしていきたいと思っています」（白井さん）

水戸藩の船が行き交った 小川河岸



園部川

かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。第9回は茨城県小美玉市にある小川河岸です。

霞ヶ浦を通る内川廻しで江戸に運んだ

園部川は茨城県小美玉市を流れる利根川水系の一级河川です。石岡市との市境を流れ、小美玉市小川を経て、霞ヶ浦の北岸に注いでいます。

園部川の舟運が活発になったのは水戸藩が立藩したときです。水戸藩主は江戸の藩邸に住んでいたため、そこに大量の米や薪炭などの生活物資を輸送する必要があったのです。

延宝7(1679)年、水戸藩は小川河岸の近くに運送方役所を置き、藩船の維持管理や川筋・水深の調査や商船に税金をかけるなどの業務を始めました。藩の荷物を積んだ船は丸印に「水」の旗を掲げて航行していたため、他の船がこの旗を見かけたら端に寄って先に通すという暗黙のルールがあったようです。水戸藩の船は利根川や江戸川の河岸などでも、さまざまな優遇を受けたといえます。

このときの輸送経路は内陸を通る「^{ひぬま}海老沢—海老沢—小川—潮来—関宿—江戸」で、内川廻しと呼ばれています。那珂湊から銚子港を経て江戸に向かう海路もありましたが、銚子港は潮の流れがきつく運航に支障を来すことが多かったため、あえて内川廻しの経路を使っていました。

内川廻しで特徴的なのは海老沢河岸で一旦荷揚げし、陸路で小川河岸に運んだことです。小川には、運送方役所があり、藩の荷物を回漕する積み出し拠点でしたが、安永8(1779)年、巴川河口の串挽河岸(銚田市)が積み出し拠点となり、経路も「海





小川河岸があった場所は現在、駐車場になっている。「小川河岸跡」と記された看板のみ設置されている[左]。敷地内には水神宮がある[右]



水戸藩の船を示す「丸に水」
(小川図書館・資料館蔵)



小川小学校の敷地内には運送方役所の標柱がある。ここに水戸藩領の小川城があった



小美玉市小川図書館・資料館では小川河岸の歴史を知ることができる[左]。館内には小川河岸のジオラマが設置されている[右]



小川河岸や下吉影河岸から出る船は霞ヶ浦を経由し江戸に向かった。晴れた日は筑波山が見られる

老沢－下吉影－鉢田－潮来－関宿－江戸」に変わりました。なお、運送方役所も上戸(潮来市)に移ったのち天保3(1832)年には巴川中流域の下吉影(小美玉市)に移転しています。海老沢河岸から下吉影河岸まではやはり陸送でしたが、距離が短くなるため運送の負担は大幅に減りました。

昭和初期まで薪の輸送を行っていた

それ以降、小川河岸はあまり使われることはなくなりましたが、小川河岸と下吉影河岸にあった薪炭問屋の薪は「サクラマキ」という愛称で江戸の人々に重宝されていたことから、昭和初期まで薪の積み出し港として使われていました。

園部川は昭和11(1936)年の改修工事によって川筋が変わったため、小川河岸も自然に消滅しました。小川河岸の歴史は小美玉市小川図書館・資料館で知ることができます。



関東大震災後に建設された 兄弟トンネル

神奈川県横浜市の保土ヶ谷駅^{おほほら あずま}からほど近い位置に二つの隧道があります。それが今回ご紹介する大原隧道と東隧道です。大原隧道は水道幹線路として、東隧道は道路として使われています。元々は同じ時期に水道幹線路として造られたことから、二つの隧道は兄弟トンネルと呼ばれています。

竣工年は大原隧道が昭和3(1928)年、東隧道が昭和5(1930)年。関東大震災後、震災復興事業の一環として建設されました。横浜市道路局橋梁課と水道局中村水道事務所は、二つの隧道が計画された経緯を次のように話します。

「横浜市の水道は、関東大震災によって大被害を受けました。給水が不可能となり、既存の水道網の復旧が急務となりました。この復旧作業と同時に、横浜市は水道管の敷設が遅れていた編入市域への給水を決定します。編入市域であった磯子、岡村、蒔田、大岡方面の配給強化を図るために計画されたのが、大原隧道と東隧道です。二つの隧道には蒔田磯子配給幹線が通っています」

横浜市南区清水ヶ丘にある大原隧道は、延長254m、高さ3.62m、幅2.44mで建設された馬蹄形トンネルです。トンネル内部には蒔田・磯子方面への水道管が埋設されていて、今も機能しています。当初は管理者しか歩けませんでした。現在は歩行者用通路となっているため、隧道内を歩くことが可能です。

兄弟トンネルのもう一つの隧道である東隧道は、保土ヶ谷区岩井町にあります。こちらも馬蹄形トンネルですが、延長は168.7m、高さ6.3m、幅5.7mで建設され、大原隧道よりも大きいのが特徴です。

横浜の隧道の歴史を語る上で欠かせない、 大原隧道と東隧道

歩行者以外に車も通行することができる東隧道は、当初から水道管と道路トンネルの併用で計画され、整備されました。対面通行で、大型車同士はトンネル内ですれ違うことはできません。トンネル内部には歩行者が避難できるよう、避難所が5カ所設けてあります。車、歩行者ともに通行量が多く、生活道路として地域住民に利用されているのがうかがえます。

馬蹄形トンネルの大原隧道。道路部は歩行者用として使用されている。地下には水道管が埋設されている



大原隧道



関東の土木遺産 第30回

震災復興事業の一環として建設された

大原隧道・東隧道

神奈川県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。第30回は神奈川県横浜市にある大原隧道・東隧道です。

同じ目的で建設された大原隧道と東隧道。関東大震災後から今日に至るまで、市民に水を供給する水道管として大きな役割を担っています。横浜市道路局橋梁課は二つの隧道が評価されるポイントと魅力を次のように話します。

「まずは技術です。日本において近代の隧道建設が始まったのは、明治時代、大正時代のことです。この頃は鉄道用の隧道が主でした。横浜で本格的な隧道の建設が始まったのは昭和初期です。横浜市中区麦田町にある山手隧道も昭和3（1928）年に建設されました。大原隧道、東隧道、山手隧道、どれも当時の土木技術者の並々ならぬ努力と意気込みを感じさせるものがあります。横浜の水道と都市形成の歴史を知る重要な遺構です」

凝った坑門のデザイン。 花崗岩と焼過煉瓦を組み合わせる

隧道の魅力を横浜市道路局橋梁課はこう続けます。

「坑門の表面に花崗岩を使用し、梁と柱を表現しています。その他の壁部は紫褐色の焼過煉瓦を使用し、梁と柱をはっきりと表現したデザインになっています。独特な雰

囲気と安定感を備えていて、落ち着いた色合いが趣きを感じさせます。壁面上層部の装飾材など、細かな意匠にも充分な配慮が行き届いていて、全体的に格調高く、品格を持った貴重な隧道ということが出来ます」

大原隧道の坑門も同様に、紫褐色の焼過煉瓦をフランス積みをしています。花崗岩を門柱のようにしたデザインが特徴的です。東隧道も花崗岩と焼過煉瓦のフランス積みで坑門を装飾。兄弟だからか、容姿が似ています。

大原隧道と東隧道は、平成18（2006）年に選奨土木遺産に認定されました。土木学会は選奨理由を次のように述べています。

「紫褐色の焼過煉瓦と花崗岩とで装飾されている坑門は、風格とともに美しさ親しみやすさを備えていて、貴重な土木遺産である」

震災復興事業で造られた兄弟トンネルは、現役の水道管として、また道路として横浜市民の生活を支えています。初めてこのトンネルを通る人は、その外観に魅了されることでしょう。風格、美しさ、親しみやすさを備えた横浜市が誇る貴重な土木遺産です。

大原隧道と同じく、凝ったデザインが施されている東隧道の坑門



人と車が行き交う東隧道。
隧道内には避難所が5カ所ある



東隧道



水道と道路の併用として建設された隧道

会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

一生幸せに過ごせる釣りの楽しみ

「一時間幸せになりたかったら酒を飲みなさい、一週間幸せになりたかったら結婚しなさい、…(中略) …、一生幸せになりたかったら釣りを覚えなさい」

これは、古い中国の諺で現代ではなじまないが、いにしえから釣りは人々の生活の中に溶け込み、時を忘れ、楽しみと潤いを与えるものであったことは間違いないと思う。

「魚を与えれば一日生かすことができるが、釣りを教えれば一生食べていける」(老子)

ということで釣りの話を始めたい。

一口に「釣り」といってもその範囲は広く、場所、道具、仕掛け、対象魚、釣り方などさまざまである。私が釣りを始めてからかれこれ30年が過ぎた。最初の頃は防波堤や浜辺、磯での投げ釣りや浮き釣りを時折する程度であったが、最近は船釣り一辺倒である。

船釣りは波穏やかで晴天、強風なしを「良し」とするので気象情報は不可欠、いつも「GPV気象予想」を見て2・3日前に釣行を判断する。これは地図上に5kmメッシュ、20kmメッシュで39時間先、264時間先の雨量・雲量、気温・湿度、気圧・風速と72時間先までの沿岸波浪予報(波高・波向・周期)を提供してくれる優れものである。

私の住んでいる所は水戸市である。「水戸を離れて東へ三里、波の花散る大洗」、もっぱら釣りの拠点は「大洗港」としている。自宅から12km、20分程で漁港に到着でき、天候が良ければ月に2・3回程毎回同じ船で沖釣りへ出かけている。春はカレイ(マコガレイ)、夏～秋はフグ(ショウサイフグ)、冬はヒラメである。それぞれ、竿、仕掛け、

釣り方が異なり、餌は、カレイは青・赤イソメ、フグはアオヤギ貝で引っ掛け釣り、ヒラメは活きイワシの泳がせ釣りである。シーズンごとに毎回同じ船、同じ魚種狙いで飽きそうだがそうでもなく、本命とは別に外道も掛かる。時期によって異なるがアイナメ、マダコ、マゴチ、イナダ、ハナダイ、メバル、マトウダイなどであり、フグ釣り時のマダコはうれしい外道である。

ひたすらに待つ、待つ、待つ……

船釣りの魅力は「釣れる」ことにある。船長は、自分の経験と海の状況を読み、他の船と交信、情報を得る。ヒラメ釣りにおいてはイワシの群れを追いかけてポイントを変えつつ最適場所で客に喜びを与える。しかしながら、1時間も2時間も「アタリ」もなく、エサを取り換え、仕掛けを替え、点検し、タナを取り、魚を誘う、が、釣れない時間が続くことがある。特にヒラメ釣りはそんな時間が多い。それでも辛抱強くひたすら待つ。

「釣りをしている夫の姿を見たことのない女房は、自分がどれほど辛抱強い男と結婚したか気がつかない」(エドガー・ワトソン)

よく飽きずに辛抱している自分がいる。もっとも船上であるので飽きたからといって帰ることはできない。

ヒラメ釣りは今が最盛期で大洗地域は12月1日から3月末までである。寒さを一段と感じる時期である。寒期中、竿を握りひたすら待つ……。その瞬間「コツ・コツ……」、竿に振動を感じる。「アタリだ!」「ヒラメ40・コチ20」、待つ……。待つ……。次の瞬間、竿が大きく曲がる。竿先が海面に突き刺さる。手応えを感じグイッと合わせる。

釣りと名言・格言



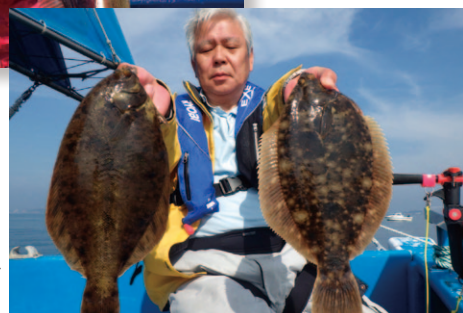
郡司 篤

奥村組土木興業株式会社 環境開発本部 東京支店 茨城営業所長
元利根川水系総合調査事務所長

大洗きよ丸に乗ってヒラメ釣り



釣りあげたイシガレイとマコガレイ



A large number of fishing boats, mostly white with blue accents, are docked along a pier in a harbor. The boats are equipped with various fishing gear, including nets and cranes. The sky is blue with scattered white clouds.

最後に名言を2つ。

「もし釣りが仕事の妨げになるのなら、仕事の方をあきらめなさい」（スパーズ・グレイ）

「釣竿とは一方に釣り針を、もう一方に馬鹿者をつけた棒である」（ジュール・ヌミナル）

[正] (大日本居合道連盟 教士八段)

ピックアップ

第8回

関東の道の駅

道の駅 常陸大宮
かわプラザ

洋野菜の地産地消・ブランド化で地域を元気に!



里山のイメージで設計された地域振興施設棟

道の駅常陸大宮～かわプラザ～(茨城県常陸大宮市)は、「常陸大宮市の、魅力の創造・体感・発信の場づくり」をコンセプトに平成28年3月25日に開業。敷地内に体験農園を設け、「洋野菜」の地産地消とブランド化を推進している。

ロケーションの魅力を最大限に生かし 立ち寄りたくなる憩いの場所に

「道の駅常陸大宮 かわプラザ」の最大の特色は、久慈川を一体化し周囲の自然を丸ごと取り込んだ憩いの場所であること。総面積は河川敷も含めて5.6haと茨城県内で最大級。解放感あふれるロケーションを生かし、バーベキュー設備や遊具のある公園、体験農園など、誰もが「立ち寄ってみたいくなる」魅力を備えています。また、災害用井戸や非常用発電機、ドクターヘリポート等を設置し、防災機能の強化も図っています。

常陸大宮市経済建設部商工観光課参事の皆川嗣郎氏は、「8月末までの5カ月間で415,000人が買い物や食事をされ、好調なスタートを切りました。その他の来場者を含めると実数はその数倍でしょう」と手応えを感じている様子。バーベキュー設備の稼働率も高く、「地元産の肉・野菜、炭も施設内で購入でき、手ぶらで楽しめる。予想を超える人気で、週末には東京方面からの予約も非常に多いです」(同課足田徹治係長)

体験農園を活用して 洋野菜を核に地域の魅力を創出・発信

第二の特色は、体験農園(約1,500㎡)があること。

皆川嗣郎氏

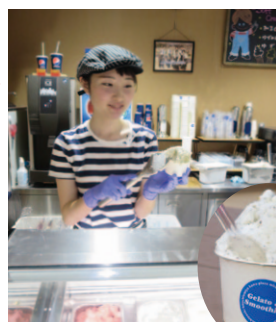
川に面したテラス席



遊具のある公園に隣接して広がる体験農園では洋野菜を中心に栽培。収穫体験は子供たちの食育にもつながる



スムージーとジェラートの店。若い女性スタッフが洋野菜ジェラート開発に熱心に取り組んでいる。人気のえごまジェラート(右下)



直売所は天井が高く、通路は広く、ゆったりした設計。洋野菜コーナーには珍しい白いナス、カラーピーマンなど彩り豊かな野菜が勢ぞろい。レシピカードも提供している



防災倉庫も設置